【ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会・第 3 日（11 月 9 日午前)】出場選手コメント

◆女子走り幅跳び　T11　決勝
・高田　千明（ほけんの窓口）
　観戦に来ている子どもの首にメダルをかけてあげたかったが、残念。ただ、4 位に入り
　東京パラ内定なので、「メダルは東京でというお告げかと思う。次を見て頑張りたい」
　(コーラーの)大森さんや井村コーチなど、多くの人に支えられ、とても心強い。

　1 本目から 4m65cm（PB)を飛べたので、調子は悪くないと思ったが、なかなかきっちり引
　っかかったジャンプがなく、記録が伸びなかった。

（記録の）アベレージは 50～60 ㎝で、底上げはできている。（メダルも）手の届く範囲
の手ごたえがある。今日は、「跳んだ」という感覚が 1 本もなかったなかで、69 ㎝が跳
べたので、ここから刷り込めば、メダル圏内は行けると思う。

（大森ガイド）
今日のできとしては 70%～８０%。これでスタートラインに立ったばかりだと思う。
(来年の試合である 8 月 22 日から逆算してやっていくための課題が今日はたくさん見つける事が
できた。（内定となり）今はほっとしている。

◆女子 400m　T47　予選
・重本沙絵(日本体育大学)
　予選だったので、確実に 3 位を取りに行くことと、この競技場で走るのが初めてだ
　ったので、どういう感じで走れるか、トラックの固さと自分のコンディションを
　確かめられたらと思って走った。思ったより狭く感じられた。コーナーはきつかったが、
　その分、重心移動をしっかりしながら前に進めた。

　今大会は、種目を 400m1 本に絞ったので、正直、とても緊張したが、（スタート前は）集中
　を切らさないようにいこうと自問自答を繰り返していた。

ピッチで行くと後半走れなくなることが分かっていたので、大きくリラックスしながら
走ることを意識した。スタートリストを見てアジア大会 2 位のインド選手がいたので、
油断できないなと思っていたが、様子を見ながら走れてよかった。

だんだん調子は上がっているので、決勝ではPBの58秒台前半を目指して、メダル獲得も目指して、東京パラの切符もちゃんと取って、笑顔で帰れたらと思う。

（コメント協力：星野恭子）